

## 都市史研究の現場

## 中世都市研究会

千田嘉博

国立歴史民俗博物館考古研究部助手

**創設と組織：**研究会創設の契機は1992年6月に鎌倉で開催されたシンポジウム「中世都市の成立と展開」にさかのぼる。この会の懇親会で中世都市の学際的な研究会を継続的に開催し、情報を交換する場をもつことが話し合われ、網野善彦・石井進・大三輪龍彦の三氏が発起人となって、1993年に会が発足した。

代表には発起人の三氏が選ばれ、50音順に各一年間、会長を務めている。会員は登録制で、考古学・歴史学・建築史学・歴史地理学の研究者を中心に現在約200名。このうち全国各地の約30名が会の世話人になっている。

**研究集会とテーマ：**毎年、テーマを選んで2日間の研究集会を開催している。基調報告1本に、研究報告5~6本、全体討議といった構成が研究集会の基本である。これまでのテーマと会場は、第1回（1993年）が「都市とその住人—内部構造と場の視点から一」（大手前女子大学）。第2回（1994年）が「古代の都市から中世の都市へ」（仙台市博物館）。第3回（1995年）が広島県立博物館との共催で「津・泊・宿」（広島県立博物館）。第4回（1996年）が福岡市博物館との共催で「都市と宗教」（福岡市博物館）である。

**研究会誌：**研究会の活動のもうひとつの柱が研究会誌『中世都市研究』の編集である。各年度の研究集会の報告を採録するとともに、テーマに関連した遺跡紹介、全国の中世遺跡の発掘速報・展覧会情報をまとめている。お読みいただければ、遺跡を中心とした中世都市の研究動向が分かるしくみになっている。『中世都市研究』は中世都市研究会編として新人物往来社から現在、第3号まで刊行されており、1号が本体2,718円+税、2・3号が本体3,398円+税で、書店で入手可能である。

**今年の企画：**1997年度の研究集会は、9月6日（土）・7日（日）に、福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館との共催で「都市をつくる」をテーマに開催する予定である。6日前は資料館の特別展と遺跡の見学を行う。午後から会場を移して宮本雅明氏（九州芸術工科大学）に基調報告をいただき、ついで岩田隆（一乗谷朝倉氏遺跡資料館）、松浦義則（福井大学）、山田邦和（京都文化博物館）の三氏の報告を予定している。

7日は、鍛代敏雄氏（國學院大学栃木短大）と、千田嘉博の報告の後、石井進氏が論点を整理し、全体討論を行う。この研究集会によって、京都・鎌倉・守護大名城下町・戦国期城下町・寺内町といった諸都市の建設の特色が明らかになるものと期待している。

## &lt;会に関するお問合せ&gt;

郵便もしくはファクシミリで、国立歴史民俗博物館内中世都市研究会事務局 小野正敏・小島道裕・千田嘉博まで（〒285 佐倉市城内町117、Fax.043-486-4299）。



せんだよしひろ 1963年愛知県生まれ／奈良大学文学部文化財学科卒業／考古学／共編著に「城の語る日本史」

## 都市史研究会

西坂靖

埼玉大学教養学部助教授

**発足：**都市史研究会は1990年に、都市史研究者の、時代や地域・ジャンルをこえた交流の場となることをめざして発足した。会の発足を呼び掛けたのは、1980年から続けられていた『正宝事録』（江戸町方法令集）の輪読会と、1989~90年に刊行された『日本都市史入門』全3巻（高橋康夫・吉田伸之編、東京大学出版会）の準備過程で作られた研究会とにかくわった、建築史（日本前近代）と文献史（日本近世）の有志6名であった。

**例会：**都市史研究会の活動の第一の柱は、年に3・4回のペースで開催している例会である。1990年6月23日に第1回例会（松本四郎氏「近世都市史研究の現状と展望—『日本都市史入門』に触発されて—」）を開催して以来、回を重ね、1997年1月で28回、報告数50本を数えた（後述のシンポジウムを含む）。例会報告には、個別研究報告のみならず、研究動向批判・書評など都市史の方法を議論するための報告も取り入れている。報告の対象地域は日本、時代については中世・近世・近代初頭の範囲が多くなっている。例会会場は主に東京大学（山上会館、工学部、史料編纂所等）、参加人数は20名前後である。報告者・参加者は、関東近辺の建築史・文献史専攻の大学教員、大学院生が多い。また、例会ごとに、報告要旨と討論要旨をまとめた『ニュースレター』（B5判8頁程度）を作成し、例会参加経験者に、例会案内を兼ねるものとして継続的に郵送している。作成部数は、現在140部ほどである。

**シンポジウム：**会の活動の第二の柱は、1992年から毎秋に開催しているシンポジウムである。1992~94年の3年間は、文部省科学研究費補助金・総合研究A「前近代・巨大都市の社会構造に関する総合的研究」（1992~94年度、研究代表者：吉田伸之）の研究グループと共に、「城下町の原景」（1992年）、「城下町の類型」（1993年）、「巨大都市の社会と空間」（1994年）という一連のテーマで開催し、多数の参加者を得た。1995年以降は単独で「市と場」（1995年）、「商人と町」（1996年）というテーマで開催している。

**『年報』：**会の活動の第三の柱として挙げられるのは、1993年に始まる『年報 都市史研究』の編集である（発行：山川出版社）。『年報』は、上記のシンポジウムでの報告と討論をおおやけにするとともに、都市史研究の拠点と交流の場を築くことを意図するもので、シンポジウム報告を「特集」として掲載するほか、論文・研究ノート、書評、新刊紹介、博物館展示評などからなっている。1996年10月に第4号（B5判148頁、本体3,689円）を刊行し、現在は、今秋刊行の第5号の準備中である。

**〈付言〉**本会は、登録会員制度をとっておらず、例会参加資格の制限はない。問合せは、都市史研究会事務局まで（〒338 浦和市下大久保255 埼玉大学教養学部西坂研究室気付）。



にしざかやすし 1957年福島県生まれ／東京大学文学部卒業／同大学人文科学系科博士課程単位取得退学／日本近世史